

【箕山クリニック : Doctor】

- 最大底屈位 AP で確認できた症例

Stress fracture of the medial malleolus was identified by the AP view with the plantar flexion.

- 14歳 / 男 / サッカー

[主訴] 内側痛

[初診時所見] 圧痛が内果の疲労骨折発生部位にあった。



左のレントゲン写真が通常の AP (Anterior-Posterior) 撮影、中央のレントゲン写真は、念のため OCD (離断性骨軟骨炎) がないか確認のため、Talar Dome (距骨ドーム) の写る位置を変えた底屈位で AP 撮影をしたところ、偶然に疲労骨折線を確認する事ができました。

通常の AP 撮影では写らない疲労骨折線が、底屈位だと微かに確認する事ができます。

わずかに脛骨の角度も変わったからでしょうか？身体所見で内果疲労骨折が怪しいとき、一応最大底屈位 AP も撮っておくとよいかもしれません。

【投稿コメント : trainer】

僕はこの部分の内果疲労骨折は始めて見たのですが、予後はどのようになりますか？年齢的に癒合期間も予後も良いのでしょうか？

【箕山クリニック : Doctor】

この症例はまだ骨端線がありますので、すぐに癒合し5週で復帰しました。ただし骨端線が閉鎖している症例では、3ヶ月はかかるでしょう。手術適応となる症例も少なくありません。スクリューを2本刺入しますが、手術すると8週ぐらいで復帰できるかもしれません。